

秋まきタマネギ収量確保のための効果的なかん水時期

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

1 部門名

野菜－タマネギ－水管理・水分制御

2 担当者名

笠井友美

3 要旨

タマネギでは、適切な水管理が生育促進や収量増加に繋がるため、栽培期間中のかん水の重要性は高いと考えられている。県内の秋まきタマネギ栽培において、りん茎肥大期～倒伏期にかん水すると収量が向上することを明らかにした。

(1) タマネギは、ほ場での生育期間中に高温や乾燥が続く場合、かん水することで収量向上効果が期待できる。特に、りん茎肥大期～倒伏期（5月中旬～6月上旬頃）では、少量のかん水でも効果が現れやすく、この時期にかん水することで大玉率が高くなり、収量が向上する（写真1、図1）。

(2) 1回あたり12～24 l/m²程度のかん水量で収量向上効果が期待できる。

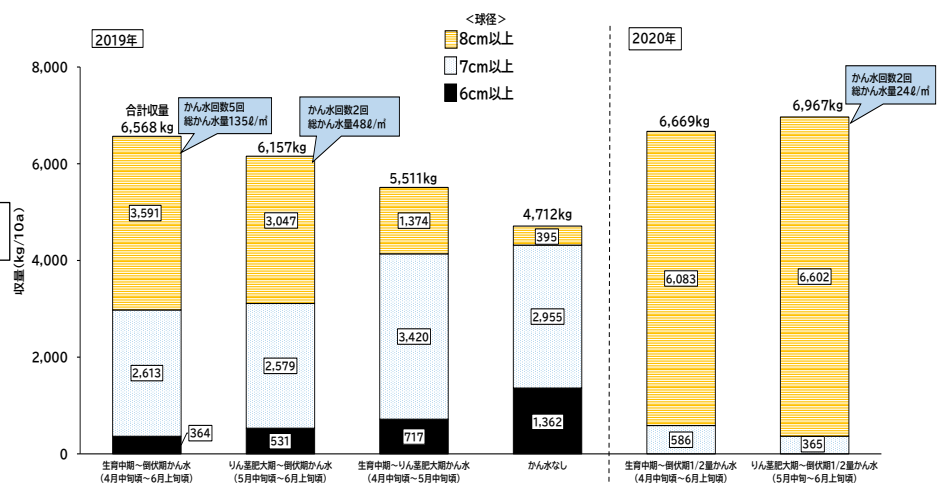


図1 かん水が収量に及ぼす影響(2019年、2020年)

写真1 かん水開始時期および終了時期のタマネギの様子

- ※ 収量は正常球(外部分球、裂皮、腐敗のないもの)のうち販売規格に該当する6cm以上のものとし、栽植密度26,667(株/10a)で算出
- ※ 生育期間中の合計かん水量およびかん水回数は、(2019年)生育中期～倒伏期かん水:合計135.0l/m²(5回)、りん茎肥大期～倒伏期かん水:合計48.0l/m²(2回)、生育中期～りん茎肥大期かん水:合計108.0l/m²(3回)、(2020年)生育中期～倒伏期1/2量かん水:合計36.0l/m²(3回)、りん茎肥大期～倒伏期1/2量かん水:合計24.0l/m²(2回)。
- ※ 試験では散水チューブ(エバフローM型)を用いてかん水した。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成30年度～令和2年度

研究課題名 大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究

[農林水産省 食料生産地域再生のための先端技術展開事業 (JPJ000418)]

5 主な参考文献・資料 なし